

月刊

あなたにこの



本を！

平成 22 年

12

月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの()内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



「韓流」と「日流」 —文化から読み解く日韓新時代—

クォン・ヨンソク 著

ジャンル：現代社会を見つめる

日本放送出版協会 1155 円 (0012121023)

今や「韓流」は一過性のブームを越え定着しつつある。一方、韓国でも書店に日本小説コーナーができていたり、日本のドラマ・音楽が注目されるなど「日流」の動きがあることはあまり知られていない。著者は、ソウルに生まれ、日韓両国で育ち、現在は日本の大学で教える「境界人」として生きてきた。本書では、二つの流れの背景や実態を読み解き、文化交流から生まれる相互理解への可能性を語る。日本と韓国との新しい関係への希望を持たせてくれる。[319.1]



生きものの上陸大作戦 —絶滅と進化の5億年—



中村桂子、板橋涼子 共著

ジャンル：知識・教養を深める

PHP 研究所 903 円 (0012117410)

今から約5億年前、海で繁栄していた生きものたちは、荒れ地だった地上にどのようにして上陸し、進化を重ね、多種多様な生態系を築いたのか。本書では、著者が勤めるJT生命誌研究館が作成・展示している絵巻をもとに、進化の過程を解説する。上陸した生物たちは、陸上生活に適應できるように上陸前から進化を始めていたなど、厳しい環境を生き抜く順応力には驚かされる。カラフルな絵や図表が、壮大な生命の物語の理解を助けてくれる。[467.5]



動物の死は、かなしい？

—元動物園飼育係が伝える命のはなし—



あべ弘士 著

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

河出書房新社 1260 円 (0012135656)

絵本作家で、北海道旭山動物園の元飼育係である著者が、動物の生と死について語った。25 年間勤務し、様々な動物の死の現場に接してきた著者ならではの体験談にはとても奥深いものがある。また、飼育係として最後の日に老衰で死んだ長命の象アサコなど、限りある命を精一杯生きた動物たちの挿話も印象的だ。死の現場に接する機会が少なくなった私たちの生活のなかで、人間を含めた生物の「命とは何か」について改めて考えるきっかけとなる。[480.7]

みんなの論語



安岡定子 著

講談社 1050 円 (0012147985)

ジャンル：知識・教養を深める

「こども論語塾」を主催する著者が『論語』をやさしく紹介する。著者は心臓病になった高校生のときに、『論語』のなかで自らの心を支えてくれる言葉に出会った。本書は、前半で『論語』全般の説明をし、後半でそれぞれの言葉を「将来のことが不安になったら」など 10 代の人たちにむけた項目に分け、現代語訳とともに解説する。若い人にこそ、一生の宝となるような大好きな言葉を見つけて欲しい、という著者の気持ちがよく伝わってくる。〔123.83〕

淀川の治水翁(おう) ー大橋房太郎伝ー



小川 清 著

東方出版 1575 円 (0012129133)

ジャンル：大阪にゆかりの本

放出(はなてん)村に生まれた大橋房太郎は、法律家を志し上京。しかし、洪水による淀川流域の惨状を知り、大阪府議となる。彼は、国への幾度も陳情、地元の人々への説得を重ねるなどの努力と行動力で、淀川改修工事という大事業を成し得た。淀川の治水に情熱を燃やした彼の生涯をユニークな人柄を示すエピソードと写真も交え語る。「治水翁」と呼ばれた彼の、故郷や人々への思い、命をかけて信念を貫いた心根は、100 年の時を経ても読む人の胸を打つ。〔B オオハ〕

介護ひまなし日記 ー新米ケアワーカー奮闘記ー

永和里佳子 著

岩波書店 1890 円 (0012121921)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

本書は、認知症高齢者施設「ともの家」で介護職員として働く著者のブログをもとに書籍化された。セタ飾りを皆で楽しみ、散歩や料理をするといった施設での毎日は喜びも悲しみも数多い。入居者たちの、ふと漏らす言葉や行動から、一人一人の気持ちや生き方に思いをはせ、そっと寄り添う著者の姿が胸を打つ。人手不足、離職率の高さといった介護現場での厳しい環境の中、共に楽しみ、分かちあいたいという温かい気持ちが伝わってくる。〔369.263〕

ぶらりミクロ散歩 ー電子顕微鏡で覗(のぞ)く世界ー



田中敬一 著

岩波書店 756 円 (0012135589)

ジャンル：知識・教養を深める

顕微解剖学の専門家の著者が、電子顕微鏡でのぞいたミクロの世界をユーモアたっぷりに紹介。自分の鼻毛とマンモスの毛の像を比較したり、発見した豆腐の微細構造に「豆腐小僧」と愛称をつけたりする。著者は遊びのような観察実験と、何千倍何万倍にと拡大された写真を通して、身近なものが持つ意外な造形美に気付かせてくれる。著者の自由で豊かな発想に好奇心が刺激され、肉眼では見ることのできない世界への興味がわきたつ。〔460.8〕

宮大工と歩く奈良の古寺



小川三夫 著 塩野米松 聞き書き

文藝春秋 950 円 (0012115982)

ジャンル：知識・教養を深める

法隆寺金堂の軒を支えている雲肘木(くもひじき)は直径 2 メートルの木から彫り出した迫力のあるものである。しかし、それ以降に建立された寺では材料となる大木が少なくなり、細い材木を使って工夫や技術で補った結果、洗練された美しさが生まれたという。著者は薬師寺などの修復に携わった宮大工ならではの目で、柱や軒の構造などを詳しく説明し、古寺の新たな魅力を示す。1300 年前の工人たちの息吹を感じに奈良を訪れてみたくなる。〔521.81〕